

東京都立小松川高等学校

令和6年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

(1) 都立小松川高等学校学校運営連絡協議会

(2) 内部委員の構成

校長、副校長、経営企画室長、主幹教諭（教務部主任）、主幹教諭（進路指導部主任）、主幹教諭（生活指導部主任）、主幹教諭（探究部主任）、主任教諭（3学年主任）、主任教諭（2学年主任）、主任教諭（1学年主任） 計10名

(3) 協議委員の構成（年度当初）

保護者代表1名、近隣小学校長1名、近隣中学校長1名、地域教育委員会1名、地域住民代表2名、地域関係機関代表1名、同窓会代表1名、学識経験者2名 計10名

(4) 事務局の構成 事務局長（総務部主任）、事務局員（総務部1名） 計2名

2 令和6年度学校運営連絡協議会の概要

(1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他

- ・ 第1回 令和6年6月21日（金）内部委員9名、協議委員6名
協議委員及び評価委員委嘱状、委員名簿、設置要綱、学校経営について、学校近況報告、学校評価について、事務連絡。
- ・ 第2回 令和5年11月8日（金）内部委員10名、協議委員8名
授業観察、学校近況報告、学校評価アンケート（案）について、意見交換、事務連絡
- ・ 第3回 令和6年2月7日（金）内部委員10名、協議委員6名
学校近況報告、学校評価アンケート結果について、事務連絡。

(2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他

- ・ 第1回 令和5年6月21日（金）内部委員3名、外部評価委員2名
昨年度の学校評価の課題確認、今年度の学校評価の基本方針
- ・ 第2回 令和5年11月8日（金）内部委員3名、外部評価委員2名
今年度の学校評価の観点・項目、内容の検討、実施時期の検討
- ・ 第3回 令和6年2月7日（金）内部委員2名、外部評価委員2名
アンケート集計結果の分析・考察、課題の整理、評価報告書の検討

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

(1) 学校評価の観点

「学校全般」「学習指導」「進路指導」「生活指導」等

(2) アンケート調査の実施時期・対象・規模

- | | | |
|----------|------------|----------------|
| ・ 11～12月 | 全校生徒（951人） | 879人（回収率92.4%） |
| ・ 11～12月 | 保護者全員 | 852人（回収率89.6%） |
| ・ 11～12月 | 地域住民（210人） | 89人（回収率42.4%） |
| ・ 11～12月 | 教職員（64人） | 64人（回収率100.0%） |

(3) 主な評価項目

学校全般、学習指導、進路指導、生活指導、保健・安全管理及び家庭・地域等との連携、ライフ・

ワーク・バランスの推進

(4) 評価結果の概要

各項目について、生徒と教員は「そう思う」「ややそう思う」「あまりそう思わない」「そう思わない」の4段階評価で、保護者と地域は「わからない」を加えて5段階評価で回答を得た。「そう思う」と「ややそう思う」の割合を合計しパーセンテージで比較した。調査項目については、生徒、教員、保護者、地域関係者が共通した項目について応えられるように作成した。表では調査項目に生徒用の項目を使用している。なお * は全回答のうち「わからない」が20%~40%、** は同じく40%を超えている回答中のパーセンテージである。また昨年に比して10%以上の増減があった場合は↑↓を付した。

番号	調査項目	生徒	教職員	保護者	地域
Q1	小松川高校での生活に満足している。	88%	77%	90%	
Q2	小松川高校に入学してよかった。 (地域：小松川高校は良い学校だと思うか)	86%	73%	94%	86%↑
Q3	授業を通して進路希望実現に必要な学力が確実に身に付いている。	76%	86%	70%	
Q4	授業の内容は分かりやすい。	81%	78%		
Q5	授業は学習意欲の向上を図る工夫をしている。	70%	83%		
Q6	生徒一人ひとりの理解度に応じた指導をしている。	64%	80%		
Q7	先生は授業の内容への質問に分かりやすく答えている。	91%	92%		
Q8	本校で出されている課題は進路希望実現に役立っている。	68%	75%		
Q9	補習・講習は進路希望実現のために役立っている。	80%	83%	*57%	
Q10	本校は生徒の自主的学習を支援している。	78%	80%	66%	
Q11	本校は読書意欲を高める工夫をしている。	23%	40%		
Q12	本校の進路指導は進路希望実現に役立っている。	83%	75%	77%	
Q13	生徒一人ひとりの希望や個性、適性に応じた進路指導をしている。	69%	70%	63%	
Q14	進路に関する情報が十分に提供されている。	91%	77%	79%	
Q15	進路に関する相談・面接が十分に行われている。	81%	77%↓	64%	
Q16	本校は模擬試験の結果を学力向上につなげる指導をしている。	81%	80%	60%	
Q17	服装や頭髪等、身だしなみに関する指導を行っている。 地域：生徒の服装や頭髪等、身だしなみは適切である。	85%	62%↓	83%	80%
Q18	挨拶や時間遵守等、基本的な社会規範を守る態度を育てている。 地域：生徒は登下校時に交通安全や自転車の事故防止に努めている。	86%	71%↓	88%	*62%
Q19	登下校時の交通安全や自転車の事故防止の指導を行っている。 地域：生徒は登下校時に交通安全や自転車の事故防止に努めている。	92%	79%↓	84%	48%
Q20	今年度の本校の三重大行事に満足している。	88%	86%	92%	
Q21	本校の部活動は充実している。	87%	78%	85%	

Q22	私は学習と部活動を両立できている。（生徒の部活未加入者除く）	66%	73%↓	73%	
Q23	本校は、体罰や暴言等をなくすために、積極的に取り組んでいる。	80%	91%	*64%	
Q24	本校は、いじめをなくすために、積極的に取り組んでいる。	75%	81%	*57%	
Q25	本校は、心配なことや不安、健康に関する相談等に十分対応をしている。	73%	85%	*55%	
Q26	学校は、事故や災害等への対応・対策を十分行っている。	82%	86%	72%	*49%
Q27	本校の施設・設備は充実している。	46%	24%		
Q28	学校は、本校の教育活動に関する情報提供は十分なされている。		78%	87%	*40%↑
Q29	本校は、地域に貢献している。	60%		*61%	48%↑
Q30	計画的な仕事の進め方により業務の効率化を徹底し、教職員の一人ひとりのライフ・ワーク・バランスの実現を図っている。		25%↓		
Q31	国や都が働き方改革に取り組んでいることを知っている。 教職員：働き方改革について保護者や地域に啓発活動を行っている。		22%↓	84%	45%
Q32	各種会議の上限時間を設け、教職員の在校時間の縮減を図っている。		21%		
Q33	本校の教育活動に関心をもっている。				46%↓

（５）評価結果の分析・考察

ア 今年度の評価の特徴

本年度も全体を通じて、おおむね数値は高く、教育活動の成果が現れていると考えられるが、昨年との対比により課題を明らかにしていく。

上記（４）の評価結果一覧表中で、昨年に比して１０％以上の増減があった項目の数に注目すると、次のような結果であった。

【生徒 ↑＝０、↓＝０】【教職員 ↑＝０、↓＝７】【保護者 ↑＝０、↓＝０】【地域 ↑＝３、↓＝１】であった。生徒、保護者は、１０％以上の増減が今年度はなかったが、教職員の生活指導に関する項目において１０％以上の減が７項目見られたことと、保健・安全管理及び家庭・地域等との連携、ライフ・ワーク・バランスの推進についての項目において、地域の回答で１０％以上増が３項目あった。

① 学校全般について

Q1、Q2 共にすべてのアンケート調査対象において高い満足度を維持しているとは言えるが、Q1「満足度」、Q2「入学して良かった」は、保護者はどちらも９０％以上であったが、生徒、教員は目標である９０％に達しなかった。地域については、昨年度まで生徒、教職員、保護者と同じ質問にしていたが、同じ質問では回答しづらいため、「小松川高校は良い学校だと思うか」に変更した。昨年度は７１％であったが、回答しやすかったのか、今年度は１５％増となった。今後も引き続き、一層の工夫と努力を重ね、９割の数値を目指したい。

② 学習指導について

学習指導については、生徒、教職員、保護者ともに大きく変化は見られなかったが、生徒の回答が７割を割っているものとして、Q6「生徒一人ひとりの理解度に応じた指導をしている」とQ8「本校で出されている課題は進路希望実現に役立っている」があった。生徒に対して、一人一人の理解度に応じた指導をするとともに、個々の生徒の疑問に丁寧に対応し、理解に結び付けていくことが重要である。また、受験科目と関係ない課題であっても、各教科で出している課題の大切さを丁寧に説明していくことが必要である。

Q11 の「本校は読書意欲を高める工夫をしている」の数値は、生徒、教員ともに低い数値で

あり、本校の課題の一つである。進路指導、学年、教科の連携、及び年次進行で実施する「総合的な探究の時間」を有効活用し、より一層「読書意欲」を高める指導の工夫を図っていく。

③ 進路指導について

生徒、教員、保護者の数値については概ね令和5年度と同様であったが、Q15の「進路に関する相談・面接が十分に行われている。」については、教員が13%昨年度より減になった。生徒は、昨年度より4%減で、保護者は7%減であった。今年度は新課程入試の初年度ということもあり、相談や面談をしていたとしても情報を集めて対策していたとはいえ、実際にどのような入試問題になるのか経験していない中での相談や面接だったため、教員の十分に対応できなかったのではないかという気持ちが数値に現われた結果ではないかと考える。

Q13の「生徒一人ひとりの希望や個性、適正に応じた進路指導をしている」は、生徒は69%と7割を切っているが、昨年度よりもこの項目は5%上昇しているため、一人ひとりに応じた進路指導をしていることについては、少しずつではあるが、評価されていることがわかる。

進路指導は、進学指導特別推進校である本校にとって、要であるため、進路指導部を中心に関係分掌、学年で検討を重ねながら、生徒の状況に応じた面接や、保護者への情報提供等を丁寧に行うなど、地道な努力を重ね、引き続き、次年度も模試結果を活用し、データに基づいた進路指導を行うことや、ケース会議で情報を学年と共有するなどの取り組みを継続することにより、今後も広く進路に関わる情報を生徒、保護者と共有していく必要がある。

④ 生活指導について

生徒、保護者に関しては、概ね令和5年度と同様の数値であったが、教員の評価がQ17「服装や頭髮等、身だしなみに関する指導を行っている」、Q18「挨拶や時間厳守等、基本的な社会規範を守る態度を育てている」、Q19「登下校時の交通安全や自転車の事故防止の指導を行っている」において、昨年度に比べ10%以上減になった。身だしなみに関する指導については、暑熱対策などの導入による教員間の足並みをそろえながら、段階的指導により生徒に小松川高校の生徒としての自覚や責任を持たせ、自立した行動により成果を得たい。自転車の事故防止については、登校時のヘルメット着用率は9割以上になったとはいえ、事故後の対応として取り組んだことはとても残念な結果となってしまった。規範意識や安全への意識を深める指導を今後も必要であるとの認識に立ち、地域の方々にも高く評価していただけるよう、引き続き改善していく。Q22の「学習と部活動の両立」については、7割以上を目指せるよう、指導を継続していく。Q23 Q24の「体罰や暴言、いじめなどの無い学校づくり」の結果は、ほぼ昨年度と変わらず横ばいの状況であることを肯定的に捉え、生徒が安心して学校生活を送れるような学校づくりに邁進していく。

⑤ 保健・安全管理及び家庭・地域等との連携、ライフ・ワーク・バランスの推進について

Q27「施設設備の充実」については、昨年度と同様低い数値である。洋式トイレの導入、トイレコーディネータやPTAの取り組みによってトイレの環境改善の取組が行われてはいるが、臭いについて指摘する声が多く上がっており、内部努力だけでは、改善できないため、校舎の建て替え、修繕について都に声を上げていきたい。Q28の「本校の教育活動の情報提供」やQ29の「本校が地域に貢献している」に関しては、地域からの評価が10パーセント以上の増となった。

Q33の「本校の教育活動への関心」については、小中学校と違って段違いに情報の発信量が減ってしまう現状を改善し、必要な情報発信を効果的に行うよう検討していく。教員のライフワークバランスに関しての評価が昨年度と比べて16%も減となったため、働き方改革を推進していけるよう、努力する。

イ 指導の結果と評価の関係

＜Q1「満足度」の各学年における推移＞

	H30 年度	H31 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度
H28 年度 入学生	89.9%						
H29 年度 入学生	85.6%	90%					
H30 年度 入学生	91.5%	90%	93%				
H31 年度 入学生		92%	91%	93%			
R2 年度 入学生			92%	86%	85%		
R3 年度 入学生				91%	86%	87%	
R4 年度 入学生					85%	87%	89%
R5 年度 入学生						90%	85%
R6 年度 入学生							89%
平均	89.0%	90.6%	92.0%	90.0%	85.3%	88%	88%

学校満足度の推移の資料を見ると昨年度と同様に 88%であった。生徒の学校生活の満足度が 9 割以上になるよう、全力で日々の指導に当たっていききたい。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

今年度の協議会を通じて、学校評価を活用した学校の活性化、学力向上の取り組み等の教育活動の推進が課題となった。

学校評価アンケートについては、授業改善や進路相談等への課題をご指摘頂くと共に、生徒の要望を正しく受け止める必要性を認識させられた。本協議会で様々ご意見、ご提案を頂き、それを学校の取り組みに活かし P D C A サイクルの取り組みを展開していくことにより、改善への方向を探っていききたい。生活指導においては、教職員の指導の方向性を統一し、継続的に取り組んできた登下校時のマナーや交通規則の遵守、社会人として通用する規範意識のより一層の醸成が必要である。そして、読書活動も本校に欠かすことができない教育活動であるため、今後も引き続き計画的・組織的に読書活動の活性化に取り組んでいく必要がある。

学力向上については、進学指導特別推進校としての取り組みが評価された。進路指導についても充実が見られ、理数研究校の指定に基づいた活動、海外学校間交流を推進したことなどが昨年度に引き続き、評価された。授業見学を経て授業に対する評価も高かった。単なる知識の獲得にとどまらない総合的な一段高い学びの実践が求められており、生徒一人ひとりに合った進路実現に向けて組織的な対応が必須である。

地域貢献活動は、一クラブ一善運動などにより地域に愛されている伝統校として教育活動を地域に還元する活動が充実してきている。一方、情報提供についてはより一層工夫していく必要がある。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

（1）学校運営

情報化、国際化、授業力向上、カリキュラム・マネジメント、危機に強い教育環境の整備等、新しい時代の課題に対応できるよう、学校の組織的運営を一層進める。「バランスのとれたリーダー」を

育成する学校として、保護者や同窓会の賛同を得、教育活動を地域に還元していく必要がある。

(2) 学習指導・進路指導

「進学指導特別推進校」として、「授業で勝負」を合い言葉に次年度も学習指導や進路指導の充実を一層図り、教科会・教科主任会を開催し、学校全体の課題について共通理解を図る。教員の授業力向上のための授業見せ合い月間の充実と、進学重点校などの授業見学・学校訪問を積極的に実施する。

計画的・組織的な読書活動の活性化、授業をはじめ教育活動全般のオンライン化をさらに進めることも必要である。

(3) 生活指導

地域貢献活動や国際交流等を一層盛んにしていく。また、体罰防止やいじめ防止などの取り組みをすすめて、安全で安心な学校を維持していくとともに、登下校時や自転車の乗車マナーの改善、挨拶運動など本校生徒にとっての規範意識の醸成が必要である。また、学習と部活との両立に関しては一層の工夫が必要である。

(4) 学校についての協議委員の意見（協議委員人数10名中8名）

ア 学校評価を活かした取り組みについて

- 生徒の満足度が高いことは、生徒や保護者の声に耳を傾け対応されているからだと感じる。
- 明るい未来を期待している。

イ 学習指導の取り組み

- 教職員は目標に向かって使命感を持って取り組んでいる。○学習指導が年々充実して、その結果として進学実績も伸びている。○文武両道を実践している高校である。○生徒、教職員がそれぞれの立場で努力していることが感じ取れて、大変頼もしい。

ウ 地域貢献の取り組み

- 自転車に乗る際のヘルメット着用について、安全指導を徹底してほしい。○自転車通学者のヘルメット義務化に動いて本当に良かった。○生徒自身がリスクマネジメントの観点から自主的に安全配慮を行ってけるとよい。

エ その他、感想等

- 保護者の意見で面談をしてほしいという希望が多く上がっていたので、1,2年次には少なくとも複数回、3者面談をしておいた方がいいのではないか。○「トイレ」については、学校独自で取り組める事案ではないことはよくわかるので、東京都に強く働きかけ続けてほしいと強く思っている。○トイレの改修が進んでいないのは何故か。早急に東京都を動かすべき。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員数 10名中6人

(2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数

そう思う	ややそう思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	そう思わない	分からない	無回答
4	2	2				

7 その他

- ・ 評価精度の更なる向上のため、保護者、地域への学校公開の機会を増やしていく。
- ・ 教員の働き方改革を推し進め、生徒への教育活動の改善へつなげていく。